

福島 健司 (2006 年卒)

留学施設 Institute for Laboratory Animal Science and Experimental Surgery, University Hospital RWTH Aachen

留学期間 2015 年 4 月～2017 年 6 月

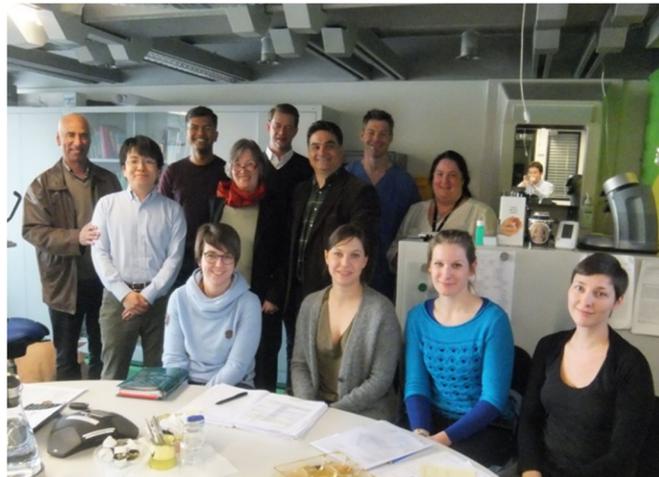
大学院を卒業後、ドイツ西部にあるアーヘン工科大学医学部実験外科学講座に 2 年 2 ヶ月間研究留学しました。ボスの René H. Tolba 教授は元々肝臓外科医、移植外科医であり、教室の研究テーマは臓器移植や肝再生に関する研究、新たな医療機器の開発、動物実験モデルの開発と多岐に渡ります。その他にも、外科に関する面白そうな研究なら何でもやってみる、という非常に自由な雰囲気の研究室です。私は、新規止血接着剤の開発、ラット肝移植モデルを用いた研究、PIHP の動物実験モデルの開発に取り組んでいました。語学面や生活面で不安の多い渡航でしたが、海外でチームの一員として働き、生活できたことは、多くの学びと自信を与えてくれました。留学を迷っている方は、ぜひ「行ってしまえば何とかなる」という気持ちで行かれることをお勧めします。



附属病院の外観



附属病院の正面玄関ホール



ラボメンバーと教授室にて。

中列左から1番目が筆者、3番目が Tolba 教授。